

市民体育大会開催



10月12日、白石川緑地競技場で75回の歴史を誇る市民体育大会が開催されました。当日は朝からの小雨も上がってまずまずの大会日和。兄弟リレーやおしどり競争、釣りのリレーなど、参加者たちはおなじみの種目で心地よい汗を流しました。

小原・熊野神社で百矢納め



小原小倉地区の熊野神社境内で10月5日、中世から続く神事「百矢納め」が行われました。当日は、市のデジタルアーカイブ事業の撮影も併せて行われ、厳かに五穀豊稔を祈願しながら弓が射られました。

建設職組合奉仕作業



9月28日、白石市建設職組合青年部の皆さんが市内保育園8ヶ所を回って無料奉仕作業を行いました。奉仕作業では、入口のレールや戸車の交換、テレビの転倒防止など、長年の使用で痛んだ部分の修理や補強をしていただきました。

12月の収穫が楽しみです

シリウスでいちご苗植栽会

4月から本格稼働している福岡長袋地区の生ごみ資源化事業所「シリウス」に付属する農業用温室ハウス「親子ふれあい農園」で、9月21日、食と農の大切さを実体験してもらおうと市内の小学生親子約160名が参加して、いちご苗(女峰)の植栽会が開催されました。



温室内は、生ごみ発電の廃熱を利用して温められた水が循環し、常に18度から24度に保たれていて、今回植えられたいちごは12月20日前後に収穫を迎える見込みとのことです。

売り切れご免の大にぎわい

尾籠地区でフリーマーケット開催



9月21日、福岡蔵本の「かんぼの宿白石」玄関前でフリーマーケットが開かれました。

尾籠地区女性部「秋桜会」が主催して、今年初めて企画されたこの催し。会場には会員の皆さんらが持ち寄った衣類や陶器、雑貨類などの日用品が所狭しと並べられました。

午前10時の開店を待ちきれない地元の方やかんぼの宿の宿泊客など、大勢の人が会場に詰めかけて、会員の威勢のよい掛け声とともに飛ぶように品物が売れていきました。

クラシックカーが市内を大走行

ラ・フェスタ・ミレミア2003

10月6日、国際ラリー「ラ・フェスタ・ミレミア2003」出場のクラシックカー約100台が市内を通過しました。スタンプポイントとなった白石城三階櫓わきでは、お目当てのクラシックカーや著名人を見ようと大勢の見物客が詰めかけ、車両通過のたびに歓声が上がりました。



宗さんと一緒に熱唱しました

「蔵王のうた」コンサート

9月28日、白石市ほか3町の観光協会などでつくる「宮城蔵王観光開発推進協議会」が主催して、「第1回蔵王のうたコンサート」がホワイトキューブで開かれました。



白石キューブ合唱団・同ジュニア合唱団が白石や秋にちなんだ合唱を披露したのに続き、「宗さん」こと、さとう宗幸さんが登場し、歌唱指導しながらの「蔵王のうた」披露のほか、4曲を熱唱して聴衆を魅了しました。フィナーレは、舞台と客席が一緒になっての「蔵王のうた」大合唱でコンサートは幕を閉じました。

さわやかな山里の秋を満喫

秋の検断屋敷まつり



さわやかな秋晴れとなった10月5日、小原地区の材木岩公園内で「秋の検断屋敷まつり」が開催され、大勢の行楽客で賑わいました。

会場では、新そばやいも煮、果物といった秋の味覚が提供され、地元の愛好家などによる太鼓や琴の演奏がまつりを盛り上げました。

また、検断屋敷内では、テレビでもおなじみの民話の語りべ、かわのめりこさんが、このほど地元の自治会連合会で編集した「小原の伝説」から「子守地蔵」と「かっぱ淵」の2話を披露しました。

みなみの会の皆さんとおむつ仕立て

白二小でボランティア体験学習



9月18日、白石第二小学校の3年生120名が、総合学習の授業で学区内のボランティア団体「みなみの会」の皆さん20名と交流しました。

児童たちは、活動内容や人数、ボランティア活動についてインタビューしながら、縫い方や糸通しなど、みなみの会の皆さんが不忘園に納めるおむつ約500枚の仕立てを手伝いました。

みなみの会では、不忘園に昭和60年から毎年、さらし木綿で仕立てたおむつを納めていて、今年で8,000枚になるとのことです。

しばらく前のOH!バンドスで、検断屋敷のそばが紹介されたことがある。その前に白石のそばを賞味してもらおうと、商工観光課長に、宗さんにそばを届けるように言っておいた。その返事に『やはりそばは、打ちたて、茹でたてですよね。是非、検断屋敷の白石くず入りのそばを賞味したく』と書いてあった。つまり、商工観光課長が届けたそばは、まさにという意味だろう。



川井市長のせせらぎトーク

「蔵王のうた」

ポーチパークで打って試食しようということである。一口ほおばった宗さんが「これはうまい!」と激賞した。一緒に食べたピアノリストの榎原光裕さんや司会の千葉絵美さんも、物も言わずに食べている。好評である。宗さんを見て、二人の女性がサインをねだった。ひとりの美人さんが「いつも仙台放送で見えております」「仙台放送ではないでしょう」「あつ間違えました。TBCでした」私が茶々を入れて「ますますおかし。サインはお断りだね」と言うのと、「だまってんの。何放送だか分からないけど、OH!バンドスでお目にかかっているんだからさすが片倉喜多さんの末裔!!宗さんも苦

笑しながら、サインをしていた。ところで、コンサートのポスターには、蔵王霊歌と書いてある。昔の歌なので、なかなか楽譜が見つからない。探しに探して見つけた楽譜に書いてあったのが、蔵王霊歌なのである。つい得意になって、宗さんにも連絡し、せせらぎトークでも書いた。引用してみる。『ある日、OH!バンドスで宗さんが「蔵王の歌」を歌っていた。着替えの手を止めて、宗さんの歌に聞き惚れた。:(中略)宗さんの歌には「蔵王の歌、放送直後から問い合わせあり。改めて、後世まで残る素晴らしい歌の力を思い知らされました。さとう蔵王の歌は正式には、「蔵王霊歌」という。』作詞作曲した刈田仁さんのご家族から、宗さんの事務所に電話があった。それによれば、蔵王のうた、あるいは蔵王讃歌が正しいとのことである。これは、とんでも無いことになってしまった。お詫びしなければと口に出したら、元仙台郵便局長の竹内廣さんが、うまいことをいいましたね。『ろくに調べもしない

で蔵王霊歌(レイカ)などというから、今年冷夏(レイカ)になった。米の不作もそのせいだ』恐れ入りました。それにしても素晴らしいコンサートだった。その夜八時過ぎ頃、私の耳に蔵王のうたが響いてきた。ポーチパークの焼き鳥を食べながら談笑していたお客さんの間から、突如、蔵王のうたの合唱が起こったのである。これが全国に発信されることを祈る。最後に替え歌を披露する。 『蔵王冷夏』 われら集う白石に 愛しき店あり 忘れじの店よ うぐいす ああ 見ていると 言っではみたがああ 別の局 仙台・TBC 言われた言葉の 宗にはげしく 深ければこそ この店の繁昌 われら祈らん (竹内廣氏投稿)』